

水曜通信 17

2018年
11月

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

第17回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2018年11月21日（水） 18:30-19:00



説教：阿久戸 義愛（本学講師）
奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：R.パウエル「十字架のもとぞ」

招 詞

讃美歌：262番「十字架のもとぞ」

聖 書：マタイによる福音書 18章12-14節

讃美歌：讃美歌21 200番「小さいひつじが」

説 教：「神に見いだされてある」

祈 禱

頌 栄：544番「あまつみたみも」

後 奏：別紙参照

頌栄に引き続き、後奏として小野なおみ氏（本学礼拝オルガニスト）による20分間のオルガン演奏による讃美を行ないます。

次回第18回水曜礼拝は**12月19日**です。

第16回水曜礼拝報告（説教：原田 浩司、奏楽：小野 なおみ）

2018年10月17日(水) 18:30-19:00

讃美歌：546番「せいなるかな」
聖書：ルカによる福音書 15章1-7節
讃美歌：461番「しゅわれをあいす」
説教：「迷い出た一匹の羊よ」
頌栄：541番「ちちみこみたまの」



【説教要旨】

99匹を野原に残し、迷い出た1匹の羊を捜す羊飼いの話し。この世はそんな不合理なことはしないだろう。この譬えは人知を超えた神の愛を分かり易く教えてくれる。

羊飼いはまず1匹の不在に気づく。「無関心」では気づけない。次に、99匹を残して、その1匹の捜索が始まる。この羊飼いは「計算」がない。神の愛に損得勘定はない。そして羊を1匹や99匹と数値に置き換えず、「かけがえのない存在」として追いかける。捜索には忍耐や我慢が強いられるが、徹底している。発見後、羊飼いはその1匹を背負っていく。愛は背負うことである。そして、最後に仲間たちと喜びを分かち合う。愛は分かち合うものである。この譬えは豊かな愛の本質を私たちに教えてくれる。（原田浩司）

前奏：F.メンデルスゾーン「オルガンソナタ第4番」より
第3楽章 アレグレット

後奏：F.メンデルスゾーン「オルガンソナタ第5番」より
第1楽章 アンダンテ



メンデルスゾーンは10代の初めからオルガン演奏をこなし、当時その難しさ故に殆ど演奏されることがなかったバッハのオルガン作品を、各地で積極的に披露しました。オルガン作品の中で一番有名な「6つのオルガンソナタ」は、オルガニスト必須のレパートリーとなっています。（小野なおみ）

礼拝とその後の19時00分から30分までの東北学院大学学生サークル室内合奏団「2 Candles」の演奏による讃美の時に、48名（※2 Candlesの2人を除いた数）の市民が参加されました。

礼拝後の東北学院大学学生サークル室内合奏団「2 Candles」の演奏による讃美

4月の結成時からの本番を辿ると、最初は猪苗代教会での演奏に始まり、オープンキャンパス、大学祭、名取教会での献奏、そして前回の水曜礼拝という流れで活動してきました。今回の水曜礼拝が、今まで最も規模の大きい会場での演奏会で、私達は緊張のあまり不安を抱えて今回の演奏会の幕を開けることとなりました。しかし、お客様の温かい眼差しが僕達の緊張をほぐしてくれたおかげで、とてもいい演奏ができました。温かいお客様、神様に大変感謝です。

（総合人文学科3年 門脇社）



研究ブランディング事業 学生ワークショップ
「東北における宗教的観光資源の可能性 — 世界から見た東北観光 —」 報告



10月6日、7日と秋田県湯沢市・羽後町を拠点として、東北学院大学研究ブランディング事業学生ワークショップが開催されました。院内銀山史跡を見学、株式会社トラベルデザインの須崎裕さんによる羽後町を利用した田舎留学の説明など、多くの学びの時を与えられました。参加した学生からは、「今回赴いた院内・湯沢市の地は私が普段生活している地域と全く違う世界であった。自分の活動拠点である仙台や東京などと異なり、あれほどまでの田舎の環境や生活に触れる機会は初めてであった。消滅が目前に迫っている地域について学び、考えることがいかに難しいことかを実際にその現場で活躍する方々から聞く貴重な機会になった」という声がありました。引き続き、東北における宗教的観光資源の可能性について、座学と共にフィールドワークを交えて、学んできたいと思います。
 (吉田新)

研究ブランディング事業シンポジウム
「苦難と救済 — パウロにおける苦しみの意義 —」 開催

10月13日(土) 午後1時より、土樋キャンパスホワイ記念館ホールにおいて、東北学院大学研究ブランディング事業シンポジウム「苦難と救済 — パウロにおける苦しみの意義 —」が開催されました。アウクスブルク大学哲学社会学部教授ペトラ・フォン・ゲミュンデン先生より、「パウロにおける苦しみとその克服」と題する発表がありました。神学の伝統に従って神論、キリスト論、教会論、終末論の観点から、パウロにおける苦しみとその克服の意義をめぐる問題について説明され、その後、パウロにおける実践に根差した苦しみの克服について説き明かされました。西南学院大学名誉教授の青野太潮先生から「パウロの『十字架の神学』から見た『苦難』の問題」と題する講演をいただきました。パウロの「十字架の神学」を視座に据え、その現代的な射程についてお話されました。最後に登壇した総合人文学科の吉田新准教授は、パウロの苦しみ理解がその後のキリスト教にどのように受容、展開されたのかについて、第一ペトロ書を例にし、説明されました。三人の講演の後、質疑応答を交えた討議がなされ、活発な意見交換が行われた。



(吉田新)

— ランカスター神学校での発見（2）—

「最初の7人の生徒」

東北学院の最初の生徒は「6人」であったということが長く伝えられていますが、実はどの時点で数えるかで人数は異なってきます。ホーイは、1886年7月30日付の手紙で、「5月以来、4人の青年が勉強を始めており…間もなくもう2人が加わる」との報告を外国伝道局に送っています。

初めて氏名が明らかになるのは、翌年7月1日付のホーイの手紙です。そこには「7人の氏名と年齢は次のとおり」として7人の名前が挙げられています。今回収集した「6人と生徒と2人の教師」として知られる写真には、赤字で氏名が書かれており、これまでの調査と一致しますが、その中に含まれない7人目の生徒「橋本宗之進」の写真も入手することができました。7人の生徒については『百年史』に詳細な記述があります。（東北学院史資料センター日野哲）



協賛講演会のお知らせ

「ロマネスクからゴシックへ — 見えない神から見える神 —」

講師：鐸木道剛（本学教授）
 坂田奈々絵（清泉女子大学講師）
 日時：11月24日（土）13：30～16：00
 会場：土樋キャンパス 8号館5階 押川記念ホール



会場は、
押川記念ホールに
 変更になりました。



文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
 第17号

2018年11月2日発行
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
 TEL：022-264-6547
 E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
 URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/